

■肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

マルチメディアDAISY図書が身近な読書活動の一つとして活用されることを目指して

横浜市立上菅田特別支援学校
岩崎有美

はじめに

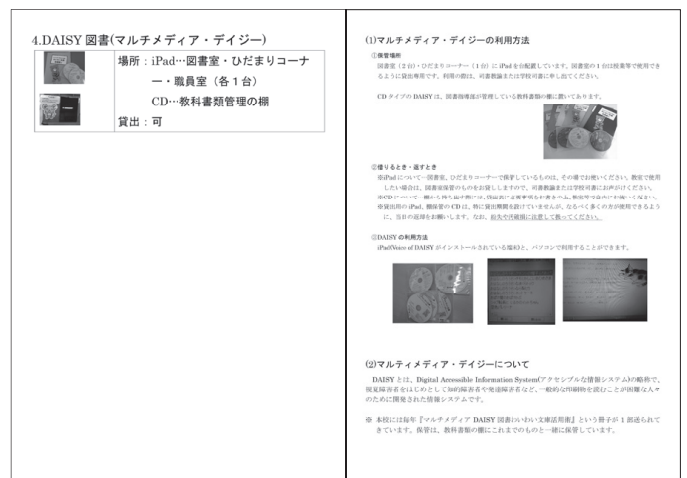
本校には小学部から高等部までの肢体不自由のある子どもたちが217名（総76学級）在籍しています。自立活動を中心とした学習、教科領域を合わせた指導を中心とした学習、教科を中心とした学習と子どもたちの発達段階や実態はさまざまです。

小学部は学年、中学部、高等部は発達段階や実態に応じたグループ別に学習活動を行っています。学校図書館の利用も読書活動から調べ学習までいろいろな形で多くの子どもたちが利用しています。

本テーマでの研究も4年目となりました。昨年度の実践から見えてきた課題は、マルチメディアDAISY図書のCD版の活用頻度の少なさ、『わいわい文庫活用術』の認知度の低さでした。

本校では、学校図書館の利用に関する研修を年度初めに教職員向けに行っています。今年度は研修の内容に、マルチメディアDAISY図書、『わいわい文庫活用術』の紹介を行いました。また、本校の『学校図書館利用の手引き』に

も今年度は配架場所、貸出方法などを載せました。



『学校図書館利用の手引き』に載せた
マルチメディアDAISY図書の利用方法

今年度は、個別課題学習での活用に
加えて、校内での取り組みについての
実践を報告します。

学習活動での取り組み

〈校内読書活動コンクールでの活用〉

(高等部2年・生徒2名)

本校では毎年「校内読書活動コンクール」を子どもたち全員を対象に行っています。マルチメディアDAISY図書を含めた本校蔵書の図書を活用し

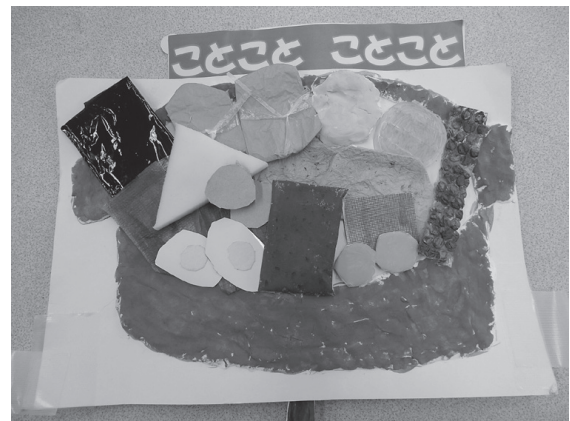
て、子どもたちの実態に合った活動で希望者のみが読書感想文、本の紹介、読書推進、音読、身体表現など作品を出展しています。毎年50～60名の作品が出展されています。これまでは図書室に配架されている本からのみの出展でしたが、今年度初めてマルチメディアDAISY図書を活用した作品が出展されました。

本校高等部は、3つのコースに分かれて学習活動を日々行っています。1学級に教科（教科を中心とした学習）コース、すてっぷ（教科領域を合わせた指導を中心とした学習）コース、そうごう（自立活動を中心とした学習）コースの生徒たちが在籍しています。通常の授業はコースに分かれていますが、学級活動や特別活動は、学級や学年で取り組んでいます。

Aさん（そうごうコース）とBさん（教科コース）の二人の活動を紹介します。Aさんは昨年度よりマルチメディアDAISY図書のiPad版を個別課題学習で活用し、中でも『ことこと ことこと』の本を興味深く聞いてきました。そこで今年度は教科コースのBさんと一緒に休み時間を活用し、校内読書活動コンクールに作品を出展することにしました。

はじめは二人で『ことこと ことこと』を読み、作品を作って本の紹介をすることに決めました。次にどの場

をどのようにしたらたくさんの人に一目で本の内容を伝えられるかアイデアを出し合い、紙粘土などいろいろな素材を使っておでんを表現することにしました。鍋に入れる具材や触って違いがわかるようなアイデアをBさんが提案し、Aさんが一つひとつ粘土で作ったりセロハンを貼ったりして作品を作りました。二人で作った作品は最優秀賞を受賞しました。



作品の写真

高等部の教科コースの生徒は、校内読書活動コンクールへの作品制作の時間確保ができず参加が厳しい状況でしたが、今回の活動を通して参加することができました。ふだん「わいわい文庫」を活用する機会がなかなかない教科コースの生徒は、この活動を機にわいわい文庫の存在を認識し、読書活動への興味が高まった様子が見られました。また、そうごうコースの生徒にとっては、他のコースの友だちと協力して取り組むことができました。マルチメディア

DAISY図書は、短時間でも友だちと手軽に読書活動を行うことができ、活動を共有することができます。これまで読書活動に消極的な子どもたちも手軽に読書活動ができることを知ることで読書活動への意欲の向上へとつながると感じました。実態の違う子どもたち同士で楽しく取り組めることを校内に広げていけるようにしていきたいと思います。

〈個別課題学習での活用〉

本校では、iPadを図書室に設置し、必要に応じて図書室より貸出を行っています。また、CDを希望する学級に配布し、最新版は教職員が活用できるように教材用図書の棚に配架しています。図書室のiPadは気軽に活用できるため、個別課題学習で図書室に来て読んでいる子どもたちの姿をよく見かけます。興味のある場面になると自らiPadの画面に手を伸ばしたり、声を出したりして笑顔で楽しんでいます。言葉のもつリズムに笑顔になり、音声に合わせて手拍子をする様子も見られました。『ぺったんサンドイッチ』は、子どもたちと一緒に教員も物語を聞きながら、手を添え「ぺったん」と手を動かす姿もありました。

CDの活用では、ストレッチ、姿勢保持の活動時に活用されています。友だちと何を読むかを相談し、パソコンで物語をみんなで聞きながら各々の活動

をしています。姿勢保持の活動では、楽しんで意欲的に行うために、マルチメディアDAISY図書を効果的に活用し、体の使い方を学習しています。



顔をあげ腕で上体を支える

年間を通して、個別課題学習では一人ひとりに応じた活用方法で楽しく取り組むことができました。

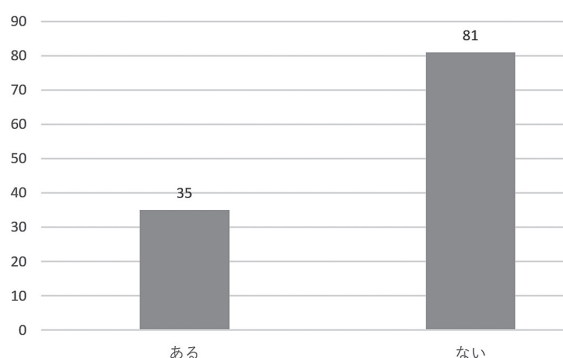
アンケート実施による現状

各学級に3～5日間、iPad版を回覧する期間を毎年設けています。回覧後に対象職員へ「マルチメディアDAISY図書活用アンケート」を実施しています。本校の総教職員は182名です。子どもたちの学習に直接かかわっている教職員は145名になります。今年度は145名の教職員を対象にアンケートを実施しました。116名（回答率80％）の協力を得ることができました。

本校に勤務するようになって、マルチメディアDAISY図書を知ったという教職員は7割でした。認知度は昨年同様で横ばい状態でした。また、CDと

iPadではCDの活用が7割を占めていました。「授業で活用したことがありますか」という問いでは「ある」と答えた人は3割程度でした。活用についても昨年度とほぼ変化はありませんでした。

授業での活用状況

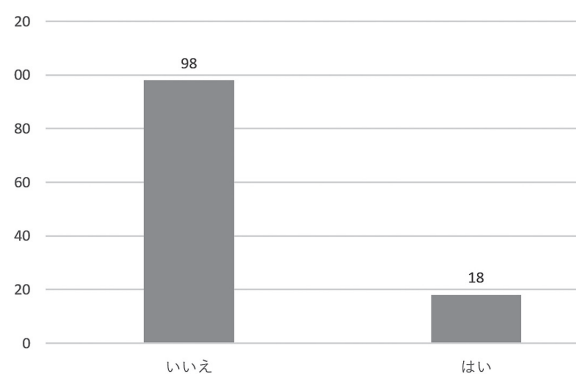


昨年度のアンケートの内容では、「マルチメディアDAISY図書の活用方法を知りたい」という意見が多かったので、『わいわい文庫活用術』についても、今年度はアンケート項目に入れることにしました。『わいわい文庫活用術』の存在を知っていますか」という問いでは、「知っている」と答えた人は18人でした。

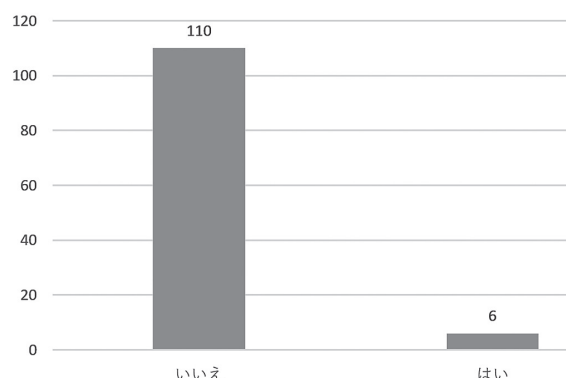
多くの人が『わいわい文庫活用術』の存在を知らないという現状が見えました。「読んだことがありますか」という問いに対しては、読んだことが「ある」と答えた人は6人にすぎませんでした。「授業で活用したことがありますか」という問いに対しては、「ある」と答えた人は3人でした。年度当初に研修で紹介をしても、活用頻度は低いのが現状です。紹介するだけでは、なか

なか授業などでの活用につながらないということがわかりました。

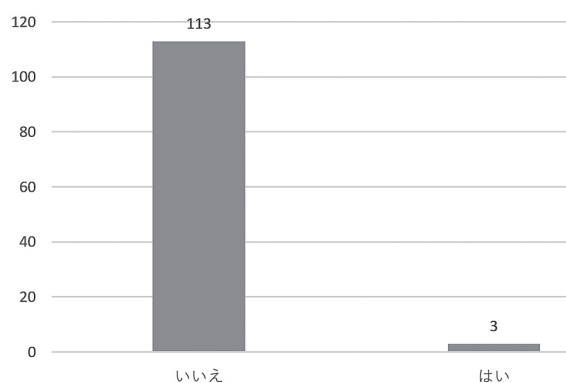
『わいわい文庫活用術』の存在を知っていますか



『わいわい文庫活用術』を読んだことがありますか



『わいわい文庫活用術』を授業で活用したことがありますか



今後は、掲示板などに活用法を紹介するポスターなどを貼ったり、リーフレットを作成したりするなどの工夫をして多くの教職員へ活用法を広めていく必要があると感じました。

おわりに

今回の活動では、実態の違う子どもたちとマルチメディアDAISY図書を活用することで、子どもたちへの認知度を高めることができることがわかりました。また、読書活動コンクールなどの学校全体での取り組みでの実践を広めていくことで、教職員への活用法を広めることにもつながると思います。

アンケートに、校内において活用の

活性化についての項目を挙げたところ、たくさんのアイデアが出ました。中には、学校司書と連携して、読み聞かせや授業に取り入れていけないか、各教科との関連性を提示してあると活用しやすいなど、建設的な意見が多く見られました。そこから、多くの教職員は、活用したいがどのように授業の中に取り入れたら効果的かということを知りたいということがわかりました。「わいわい文庫」には、読書だけでなく、図鑑などもあり、調べ学習にも活用できること、授業での活用方法、各教室で手軽に使えるような環境づくりを図書館から発信し、活用の推進に取り組んでいきます。

